

# F P 相談事例

～50代セカンドライフ準備編～

明治大学商学部 2年 内藤龍太

1.はじめに	P 2
2.相談者の基本情報	P 3
3.提案	P 7
i .収入、支出の見直し	P 7
ii .保険の見直し	P 9
iii .資産運用について	P 11
iv .解約返戻金の活用	P 13
v .提案内容のまとめ	P 15
4.おわりに	P 17

# 1.はじめに

こんにちは！

明治大学商学部 2 年内藤龍太です。大学のゼミで FP について学んでいます。ゼミの学習を通して FP の業務に興味をもったので、3 月初頭から「住まいと保険と資産管理」においてインターンシップをさせていただいています。

ファイナンシャルプランナーは、不動産業、保険業、証券業など多岐分野にわたる知識を保有し、お金のホームドクターとしてお客様に有益な情報を提供するとともにやりがいのある仕事です。今回そのようなお仕事をする職場に関わることができたことは、とても光栄であり、貴重な体験をさせていただきました。そこで、学んだことを生かし課題を 1 つ完成させました。目を通していただけたら幸いです。

課題は『FP 相談事例研究～50 代セカンドライフ準備編～』です。

50 代の方は定年も間近に迫っており、老後の生活を強く意識する年代です。子どもは独立していき、夫婦 2 人の生活費を中心に考えます。「住まいと保険と資産管理」の社員の方へのインタビューを行ったところ、相談に来られるお客様は、実際に老後の生活費はいくらかかるのか？現在の資産と年金で生活していけるのか？といった疑問を持っていることが判明しました。そこで、今回の課題では老後に必要な生活費はいくらなのか？また必要資金を集めるためにどうすればいいのか？を明確にすることを目標にしました。

先が見通せないことはとても恐ろしいです。老後の必要資金を明確にすべく作成した今回の課題がモデルケースとして、皆様が老後の生活を思い描くことができたなら幸いです。

## 2. 相談者の基本情報

	年齢	現状
父	55 歳	会社員 (60 歳定年退職)
母	55 歳	専業主婦
長男	25 歳	社会人 3 年目
次男	23 歳	社会人 1 年目

- ・一軒家保有 (3500 万を 35 年ローンで借入、返済完了 65 歳)
- ・夫婦ともに厚生年金に加入
- ・1 年に 1 度旅行する
- ・貯蓄残高 1500 万円
- ・資産運用は行っていない
- ・定年後基本収入 (年)

年金	280 万円	夫	202 万円
		妻	78 万円
個人年金	56 万円	60 歳から 69 歳の間で支給	

- ・定年後基本支出 (年)

基本生活費	300 万円	
保険料	42 万 8700 円	
住宅関連費	149 万 5000 円	55 歳から 65 歳まで
	5 万 5000 円	65 歳以降
車両費	42 万 8700 円	75 歳まで

- ・加入保険

	保険の種類	月払い保険料	保障内容	払込期間
夫	終身生命保険	15,000/月	死亡保障 1000 万	60 歳払込完了
	終身医療保険	4,035/月	入院 1 日 1 万円 先進医療対応	終身
	個人年金保険	9,425/月	560000 を 10 年支給	60 歳払込完了
妻	終身生命保険	6,897/月	死亡保障 500 万	60 歳払込完了
計		35,357/月		

## お客様への聞き取り調査の概要

55歳の会社員です。今回は老後必要資金を明確にし、また必要な資金を捻出するにはどうすればいいのかを伺いに来ました。

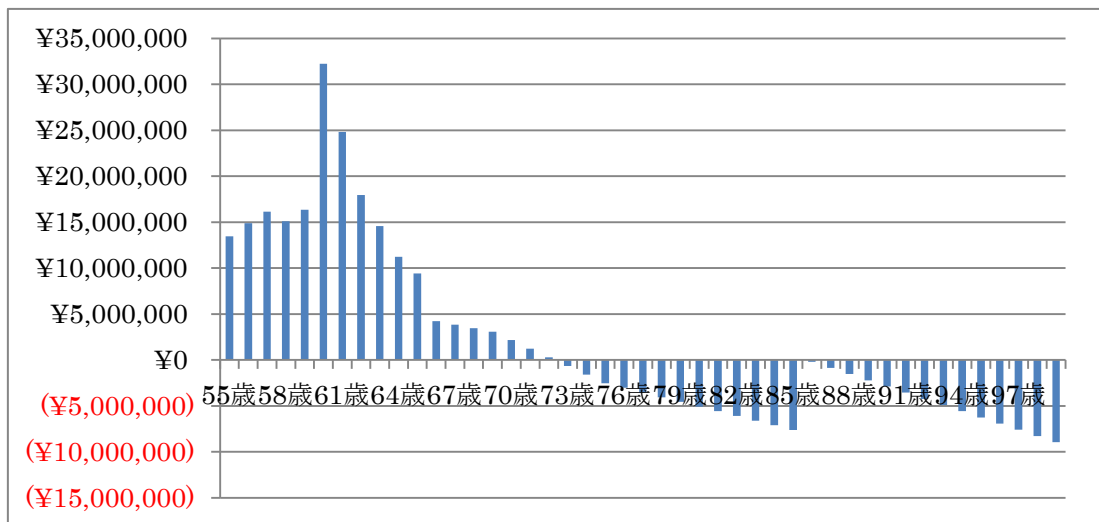
私はあと5年で退職です。退職後は年に一回は旅行に行くなど、**ゆとりのある生活**を送りたいと考えています。ゆとりのある生活を送るために、退職後も2年くらいは**働く覚悟があります**。子どもたちに金銭的な負担は与えたくはありません。私たち夫婦の生活費は私たちが捻出します。生活水準を低下させたくない所以支出は減らしたくありませんが、こづかい、交際費は多すぎる気がするので、少しならば減額することは可能です。

またこれから収入を増加させることは難しいと考えています。そこで**資産運用**に興味を抱いています。若いころ興味本位で運用したことはありますが、証券会社の担当者に言われるがままの取引だったので、あまり詳しくありません。**1割くらいの資産減少**は許容範囲ですので、ある程度のリターンを目指したいです。

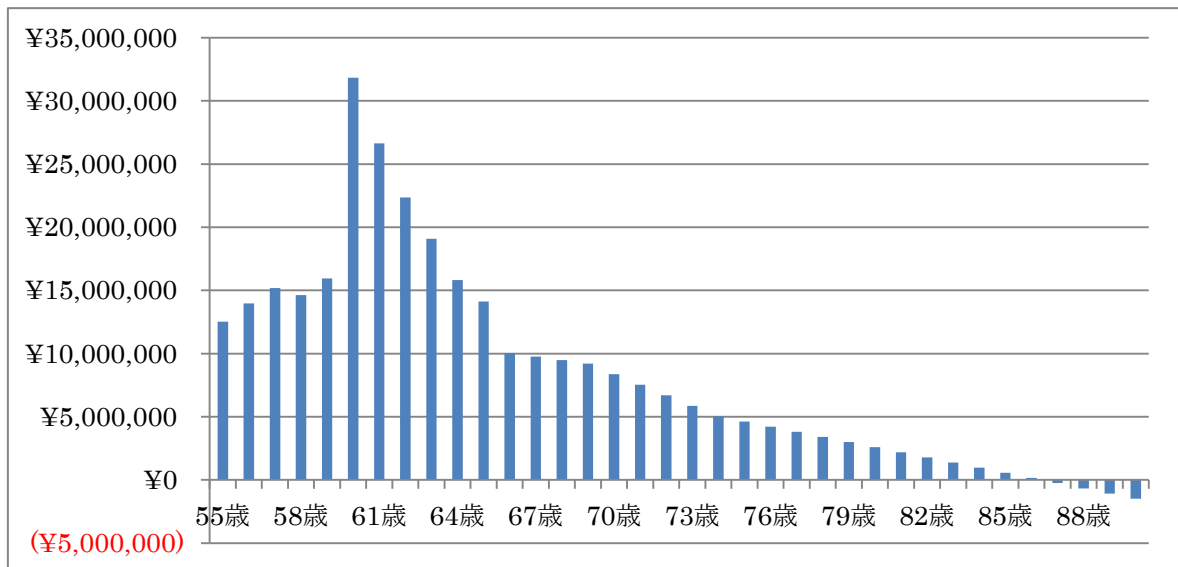
今回は、私が男性の平均寿命あたりで妻より先に亡くなる設定で試算をお願いしたいです。しかし、私も妻も家系的に**長生き**をする可能性もあるので、可能でしたら2人とも99歳まで生存しているような試算を作成していただければ嬉しいです。

これらの情報をもとにライフイベント表とキャッシュフロー表を作成しました。また、以下のグラフは現状の生活を続けていった場合の資産残高グラフです。

資産残高グラフ



長生きリスクを考慮した資産残高グラフ



#### 現状の問題点

- 1.73歳から赤字が続く(長生きリスクに対応できていない)
- 2.奥様の医療保障が手薄
- 3.インフレ対策が何もなされていない

そこでキャッシュフローの問題点を解消するために、以下の提案を行います。

**i .家計の収入、支出の見直し** (問題点 1 の対応策)

**ii .保険の見直し** (問題点 2 の対応策)

**iii .資産運用** (問題点 1、3 の対応策)

**iv .保険解約返戻金の利用** (問題点 1 の対応策)

生活費を削減することは、相談者様が望まぬ解決方法であるため、今回はできるだけ生活費の削減以外の提案を行っていきたいと思います。

## 3.提案

### i .家計の収入、収支の見直し

#### 【収入の見直し】

相談者様の現状の家計状況を確認してみましょう。はじめに、収入を見ていきます。旦那様は定年退職するまで700万円弱の収入があります。年金は報酬比例部分が63歳から始まり、65歳から満額の202万円の厚生年金を受給します。また、60歳から1年に56万の個人年金保険が支給され、69歳まで続きます。奥様は会社員として働いていた時期についての報酬比例部分が62歳から支給され、65歳から満額の78万円を受給します。

#### 【提案】

年金や個人年金は今から増やすことはできません。そこで、旦那様が定年退職後から年金支給開始までの2年の間嘱託職員として労働していただくことを提案します。報酬が200万円/年であると仮定して、2年間で計400万の収入です。この400万円の収入だけで73歳時点で赤字になることを防ぐことができます。

しかし、旦那様が平均寿命の85歳よりも長生きし、お2人が長生きした場合は87歳時点で再び赤字に突入してしまいます。そこで、87歳以降も黒字にするために資産運用を行います。詳しくは後述の資産運用の項目で取り上げたいと思います。

## 【支出の見直し】

次に**支出**についてです。現在の生活費を参考に、ゆとりのある老後生活費用を計上しました。大きな支出には、自家用車購入、旅行、子どもの結婚資金、住宅のリフォーム代があります。

## 【提案】

**こづかい、交際費の減額**を提案します。各項目年間2万円減額します。月額にすると約1666円です。この額ならば、無理なく節約できるのではないのでしょうか？この2万円×2項目＝4万円の節約がとても重要です。55歳から85歳までの30年間節約すると、120万円も節約できます。

また、奥さまの1人暮らしの支出と収入のバランスが悪く、年に70万円も赤字を計上しています。よって、申し訳ありませんが、こづかい、交際費をおのおの15万に減額していただきたいです。

以上が収入と支出の見直しです。2年間の労働と4万円の節約で**520万円**を捻出できました。また、奥さまの1人暮らし開始後のこづかい、交際費の見直しによって、15万×2項目＝30万／年の減額も可能となりました。

## 収入、支出のまとめ

- ① 旦那様が定年退職後も**2年間労働**する
- ② **こづかい、交際費**をそれぞれ**2万円ずつ減額**する
- ③ 奥さまの一人暮らしが始まった場合は、**こづかい、交際費**を**15万円に減額**



## ii .保険の見直し

ご夫妻はすでに 55 歳であるため、60 歳に払込期間が終了する終身医療保険と個人年金保険については見直す必要はないでしょう。新しい保険に加入しなおすとしても、保険料が高いため効果的とは言えません。加入されている保険はお子様は独立した現状では、十分な保障があると言えます。また個人年金保険は、現在のものより予定利率が高いため、優良な貯蓄性商品のひとつと言えるでしょう。個人年金保険は解約しないことをおすすめします。

奥さまの医療保障が手薄であることが欠点です。これから年齢を重ねるにつれ、体に異変が発生する可能性は上昇していきます。万が一、通院、入院の必要性が発生した時、お金は次々と医療費に使われていき、お2人の生活を圧迫しかねません。そこで今回は下記の終身医療保険への加入を提案いたします。

	月払い保険料	保障内容	払込期間
終身医療保険	5,300/月	入院5日目まで一律5万	終身払い
		それ以降は1日1万円	
		先進医療特約	
		終身介護保障特約	

【参考資料】

表2-1 1人当たり医療費の推移

(単位：万円)

	総計	医療保険適用							
		70歳未満			70歳以上				(再掲) 75歳以上
		被用者 保険	本人	家族	国民 健康保険	(再掲) 未就学者			
平成17年度	25.4	16.0	12.9	12.8	13.1	21.9		75.4	
平成18年度	25.4	15.8	12.9	12.6	13.2	21.8		74.2	
平成19年度	26.2	16.1	13.0	12.8	13.3	22.5		75.8	
平成20年度	26.7	16.4	13.3	12.9	13.6	23.1	18.5	75.7	86.3
平成21年度①	27.6	16.8	13.6	13.3	14.0	23.7	18.7	77.6	88.2
平成22年度②	28.7	17.4	14.1	13.7	14.6	24.6	20.5	79.3	90.1
②-①	1.0	0.6	0.5	0.4	0.6	0.8	1.9	1.7	1.9

注. 人数が未確定の制度もあり、数値が置き換わる場合がある。

### 保険見直し前

	保険の種類	月払い保険料	保障内容	払込期間
夫	終身生命保険	15,000/月	死亡保障 1000 万	60 歳払込完了
	終身医療保険	40,35/月	入院 1 日 1 万円 先進医療対応	終身
	個人年金保険	9,425/月	560000 を 10 年支給	60 歳払込完了
妻	終身生命保険	6,897/月	死亡保障 500 万	60 歳払込完了
計		<b>35,357/月</b>		

### 保険見直し後

	保険の種類	月払い保険料	保障内容	払込期間
夫	終身生命保険	15,000/月	死亡保障 1000 万	60 歳払込完了
	終身医療保険	4,035/月	入院 1 日 1 万円 先進医療対応	終身
	個人年金保険	9,425/月	560000 を 10 年支給	60 歳払込完了
妻	終身生命保険	6,897/月	死亡保障 500 万	60 歳払込完了
	終身医療保険	5,300/月	入院 5 日目まで 1 日 5 万	終身払い
			それ以降は 1 日 1 万円	
			先進医療特約	
終身介護保障特約				
計		<b>40,675/月</b>		

$(40,675 - 35,357) / \text{月} \times 12 = 63,816 / \text{年}$ となり保険見直し前よりも年間保険料が 63,816 円高くなります。しかし、参考資料にもあるように、75 歳以上の平均医療費は 70 万～80 万であり、保険に加入していないと大きな病気やけがをした場合に貯蓄を大きく取り崩す可能性があります。また終身医療保険に終身介護保障特約が付加できるので、介護費用にもめどが立ちました。保険に加入するメリットは大いにあるのではないのでしょうか。

### 保険の見直しのまとめ

奥さまの**終身医療保険**への加入

### iii. 資産運用について

ご夫妻の現在の保有資産は、銀行普通預金の 1500 万円のみです。銀行普通預金はインフレリスクに対応できない、金利が安いなどのデメリットがあります。老後のインフレリスクは非常に脅威となります。たとえば、1%インフレが起こると、資産が 1%目減りします。インフレ対策として資産運用をおすすめします。また現在のキャッシュフロー表では、73 歳時点で赤字になります。資産運用で収入を得ることによって、赤字の改善を目指します。

運用計画	運用資金	500 万円
	運用期間	通算 24 年
	期待リターン	2.125%/年

現在の保有資産 1500 万円から当面の生活資金と一時的な支出を引いた 500 万円を運用資産とします。

500 万円を生活資金とは別枠にして資産運用した場合、71 歳の段階で生活資金がマイナスになります。そこで、71 歳までに **500 万円の元本を 700 万円まで増加**させることを目指し、運用します。その後、資産がマイナスになる毎に運用資金から、200 万円拋出し、赤字を補てんします。その年齢は、73、75 歳です。そして、79 歳に運用を終了し残った運用資金 1,471,709 を銀行預金にします。500 万円の元本を 16 年間で 700 万円まで運用するには、**年 2.125%**の利回りが必要となります。

上記の運用方法をもとに、運用期間を計算すると、55 歳から 79 歳の 24 年間運用を行うことになります。

運用先	運用資金分配率	期待リターン	総合期待リターン
日本国債変動10年	60%	0.5%	<b>2.2%</b>
新興国債投資信託	10%	6%	
日本株投資信託	20%	5%	
REIT投資信託	10%	3%	

上記の試算では、必要年利回りを達成することができました。500万円の元本を747万円まで増加させられます。資産運用はリスクを伴います。そこでリスクについて考えます。もし、投機的運用先である新興国債投資信託、日本株投資信託、REIT投資信託の価格が5割減になった場合、

$$500 \text{ 万} \times 0.4 \times 0.5 = 100 \text{ 万}$$

$$100 \text{ 万} \div 1500 \text{ 万} = 0.0666\dots$$

つまりこれらの金融商品の価値が半分になったとしても、総資産が6%減ったことにしかならず、家計にそれほど大きな影響を与えません。

### 資産運用まとめ

- ①500万円を元本とし、**年利回り 2.125%**を目指す
- ②ある程度のリターンを狙っているが、**リスクへの対策**は行っているので、家計への影響は小さいものである

#### iv. 解約返戻金の活用

##### 「保険解約返戻金」について

保険解約返戻金とは、保険を解約したときに戻ってくるお金のことです。終身保険のような貯蓄性の高い商品の場合、支払期間を終えると、払い込んだ保険料以上の返戻金が受け取れます。ご夫婦の終身保険の解約返戻金は以下のグラフのようになります。(想定値)

夫		A 保険		
		解約返戻金	既払込保険料 累計額	解約返戻率
40 歳時		623,700	900,000	69.30%
50 歳時		2,022,300	2,700,000	74.90%
60 歳時	保険料払込期間 満了直前	3,645,000	4,500,000	81.00%
	保険料払込期間 満了直後	5,211,000		115.80%
70 歳時		5,805,000	4,500,000	129.00%
80 歳時		6,345,000	4,500,000	141.00%

妻		A 保険		
		解約返戻金	既払込保険料 累計額	解約返戻率
40 歳時		286,777	413,820	69.30%
50 歳時		929,854	1,241,460	74.90%
60 歳時	保険料払込期間 満了直前	1,675,971	2,069,100	81.00%
	保険料払込期間 満了直後	2,396,018		115.80%
70 歳時		2,669,139	2,069,100	129.00%
80 歳時		2,917,431	2,069,100	141.00%

この保険解約返戻金を活用して、老後の生活費を捻出します。資産運用実施後も **82 歳** 時点で再び貯蓄が底を尽きます。また、82 歳以降に所得が増加することはないので、このままでは首が回らなくなってしまいます。そこで、**保険を解約し、返戻金を生活費として活用**します。

まず旦那様の保険を 82 歳で解約し、返戻金 6,345,000 円を受け取ります。お二人の生活費の毎年の赤字額 500,000 円/年、一時的な支出 2,000,000 円、奥さまの一人暮らしの生活費の赤字額 380,000 円/年これらの情報をもとにすると、旦那様の解約返戻金は、奥さまが 91 歳の時に使い果たしてしまいます。

そこで、次に奥さまの解約返戻金 2,917,431 円を受け取ります。先ほど示したように奥さまの年間生活費の赤字額は 380,000 円なので、 $2,917,431 \text{ 円} \div 380,000 \text{ 円} = 7.6$  となり、**約 8 年** 生活を続けることができます。

### 保険解約返戻金のまとめ

- ① 旦那様の解約返戻金は **6,345,000 円**、奥さまは **2,917,431 円**（いずれも概算の予想値）
- ② 一例として、**82 歳** 時に旦那様の保険解約、**91 歳** 時に奥さまの保険解約をすることでその後の生活費をカバーできる

## v. 提案内容のまとめ

### i. 収入、支出のまとめ

- ① 旦那様が定年退職後も **2年間労働** する
- ② **こづかい、交際費** をそれぞれする **2万円ずつ減額**
- ③ 奥さまの一人暮らしが始まった場合は、**こづかい、交際費を15万円に減額**

### ii. 保険の見直しのまとめ

奥さまの**終身医療保険**への加入

### iii. 資産運用まとめ

- ① 500万円を元本とした24年間の長期運用を行う。
- ② 年利回り **2.125%以上**を目指す
- ③ ある程度のリターンを狙っているが、**リスクへの対策**は行っているの  
で、家計への影響は小さいものである

### iv. 保険解約返戻金のまとめ

- ① 旦那様の解約返戻金は **6,345,000円**、奥さまは **2,917,431円**
- ② **82歳**時に旦那様の保険解約、**91歳**時に奥さまの保険解約

以上が今回提案させていただく内容のまとめです。

それでは次のページから上記の内容を反映させたキャッシュフロー表を見ていきましょう。

もう一度現状の問題点をおさらいしてみましょう。

#### 現状の問題点

1. 73歳から赤字が続く(長生きリスクに対応できていない)
2. 奥様の医療保障が手薄
3. インフレ対策が何もなされていない

#### 改善前⇒改善後

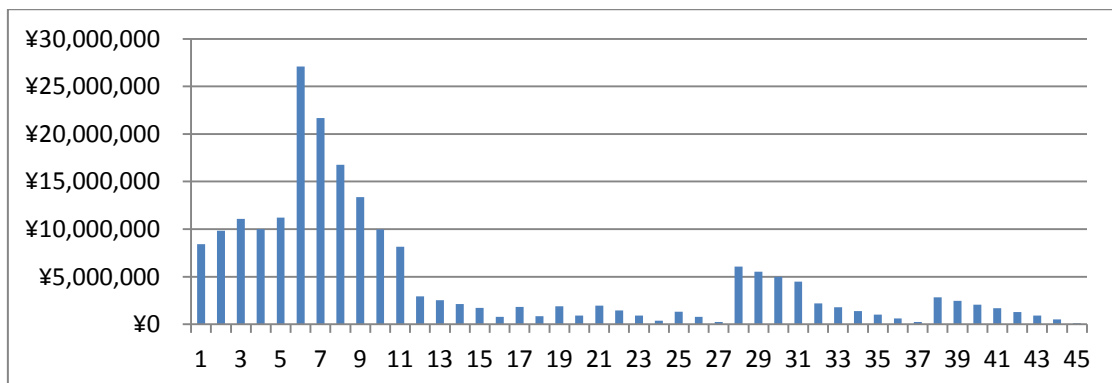
73歳以降**赤字** ⇒ 生涯にわたって**黒字** (問題点1の解決)

99歳の保有資産が**▲¥8,954,174** ⇒ 99歳の保有資産**¥118,933** (問題点1の解決)

奥さまの**医療保障なし** ⇒ 奥さまが**終身医療保険に加入** (問題点2の解決)

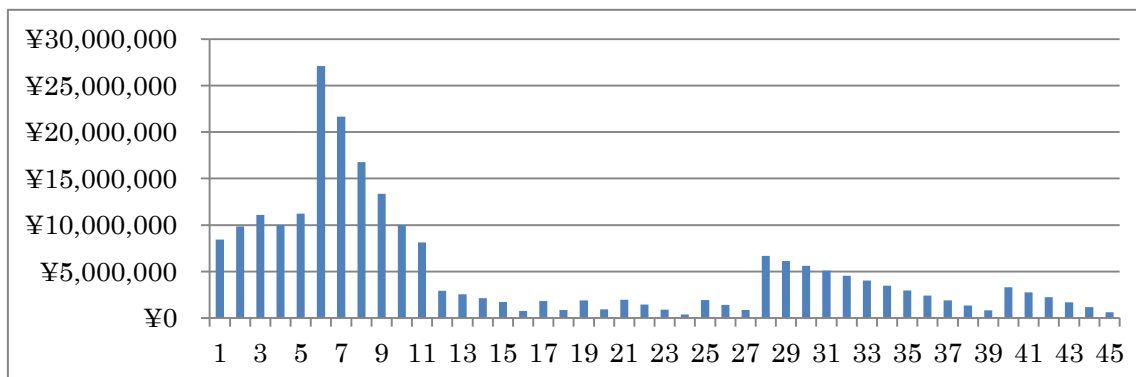
インフレ対策**なし** ⇒ **資産運用**でインフレへの備え**あり** (問題点3の解決)

#### 修正後資産残高グラフ





修正後の長生きリスク考慮資産残高グラフ



※今回の提案は、できるだけ生活費を削減しないよう策を講じました。しかし、資産運用が思ったようなリターンを残せなかった場合や奥さまの一人暮らしが早い段階から始まってしまうと**生活費を減額**していただく必要があります。

※また、物価上昇率 0%としてシュミレーションを行っています。そのため、運用を行わない生活資金についても少なくとも物価上昇率と連動する資産管理を行う必要があります。

## 4. おわりに

最後までお読みいただきありがとうございました。

今回は長生きした場合についてあまり深く触れませんでしたので、ここで一つ長生きリスクに対応する制度を紹介します。それは、厚生年金の繰り下げ受給です。70歳から受給すると、通常の142%の年金額を一生涯受け取れます。

50代はいよいよ子どもが独立し、夫婦二人の生活費を重視していく年代です。そこで、老後の生活費がどのくらいかかるのかを明確に数値化し、必要資金の捻出方法をわかりやすく提案することを心がけました。

提案による改善の成果で、キャッシュフロー表が黒字になりましたが、年を取るにつれ、不測の事態が起きる可能性は高まるので、適宜ライフプラン、キャッシュフロー表の見直しをおすすめします。

最後になりましたが、課題作成にあたり、「住まいと保険と資産管理」の社員の方にアドバイスをいただき、3週間もの間お世話になりました。

これから社会に出ていく私にとって、すでに働いている社員の方へのインタビューは、貴重な体験でした。「住まいと保険と資産管理」でインターンシップをさせていただいたおかげで、“働く”ということを実感できました。

お世話になりました。ありがとうございました。

#### 参考文献

生命保険文化センター（2011）『定年GO！』

生命保険文化センター（2012）『年金ガイド』

角川SSコミュニケーションズ（2011）『レタスクラブ保険の本』

#### 参考URL

生命保険文化センター

[http://www.jili.or.jp/research/report/chousa22th\\_1.html](http://www.jili.or.jp/research/report/chousa22th_1.html)（最終閲覧日 2013年3月19日）

セカンドステージ

<http://www.nikkeibp.co.jp/style/secondstage/>（最終閲覧日 2013年3月19日）

日本年金機構

<http://www.nenkin.go.jp/n/www/index.html>（最終閲覧日 2013年3月19日）

#### 【監修者コメント】

弊社に相談される多くのお客様の中でも、6～7年前は「保険見直し」が圧倒的に多かったです。しかし、ここ数年で50代以降の「リタイアメント準備」は30～40代の住宅購入と並んで目立つ相談内容になってきました。このような背景があり、今回この課題を内藤さんに挑戦してもらいました。

お客様に関する情報には守秘義務があるため、実際の相談事例をそのまま使うことはありませんが、内藤さんは10名の本社スタッフへのインタビュー、ネット上の専門情報、書籍や雑誌による学習を通じてケーススタディをまとめました。そして、老後における長生きリスク・長期の資産運用・生命保険の活用などに関する深い洞察を含む、広く一般の人に役立つサンプルの2013年現在の最新版が完成しました。

このレポートが、ファイナンシャルプランナーへの相談を検討している多くの方に役立つことを心から願っています。

株式会社 住まいと保険と資産管理・代表取締役 白鳥 光良